

第四十五回宗像歌会

平成二十八年十一月十九日(土)

自由詠

題詠『友達』

一斉清掃で汗流し
触れ合いに心通わせ
居心地良い団地
ご縁を大切に
この町でいきてゆく

大槻 幸子

友を
失った
その日
柿は
たわわ

岡本 まさ子

今頃になって
初めてわかった
もう考えすぎない
とにかく「今」は
「今」を楽しむんだ

松本 晴美

友との語らい
日常のあひ澱
ゆるゆると溶かされ
明日は
軽やか

杉本 明美

ときおり風が
狂ったように
戸を揺さぶる
冬到来の日
アメリカ大統領選終わる

高原 美智子

あれもこれも
忘れていたこと
なつかしい人のこと
早口の会話つづく
幼なじみからの電話

高原 美智子

「冗談は顔だけにして」と

笑いを取る友は
真夜中の裸電球のよう
頭も心も明るくて
寒き憂き世を温める

山本 香代



名前をちゃん付けて
呼び合う遠方の友
肺炎で入院していたと
ご主人はアルツハイマーに
長生きしてと 切ないほどに

大槻 幸子